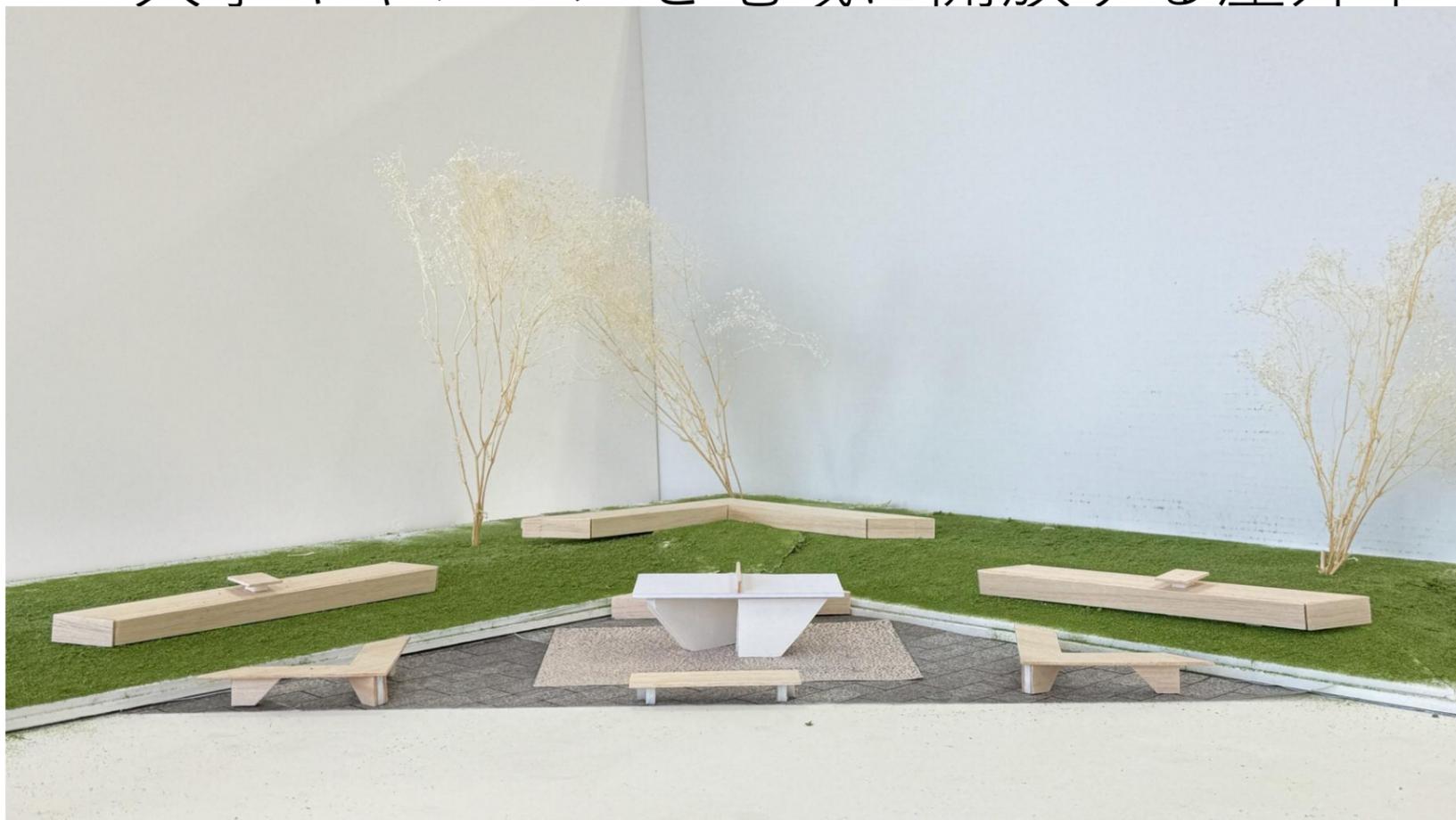


真美ヶ丘 ピンポン コモンズ

～大学キャンパスを地域に開放する屋外卓球台の交流場所の創出～



01 背景

- ①地域の高齢化に伴って運動不足が懸念されている。
- ②大学周辺は運動施設が少ないわけではないが予約なしで利用できる場所がほとんどない。

03 目的

スポーツはするだけでなく見ている人も健康にするという研究結果が出ている。まち全体で健康になる事を目指す。この卓球台をきっかけに大学と地域のつながりのあしがかりになってほしい。運動不足の解消や健康のため歩道と坂道は認知症と糖尿病に効果がある様々な世代の人たちとの交流のきっかけ。→卓球台があることで生まれるコミュニケーション

02 課題

誰もが気軽に利用できる屋外スポーツ拠点不足しており、散歩以外の身体活動を促進する環境の整備が求められている。予約なしで無料で楽しめる場所を作りたい。大学と地域のつながり地域に開かれたイメージがあまりない。それをこの卓球台を通して地域に根差した大学というイメージにしていきたい。

地域



04 対象地域の現状

奈良県真美ヶ丘ニュータウンの中央を南北に走るかつらぎの道
真美ヶ丘ニュータウンはかつらぎの道という遊歩道や小さなショッピングモールなどがあり学生と地域住民の動線が重なっており、様々な世代が行きかう場となっている。右の図は周辺の地図を着色したもので黄色がかつらぎの道で赤色が周辺の運動施設になっている。既存の運動施設は予約が必要であるため利用できる人数が少なくなっている。かつらぎの道に面しておりなおかつデッドスペースになってしまっている場所が畿央大学の第二キャンパスの門の前にある。また、畿央大学があまり地域の人々と交流のないというイメージが大学側からも感じられる。

05 全体計画

かつらぎの道と卓球を中心としたさまざまな世代が交流できる空間の創出
この地域の現在置かれている背景や課題などを考え適度な運動量とさまざまな世代が交流できるスポーツ、またその場所で起きるコミュニケーションがこの課題を解決すると考え卓球をこの計画の軸に決定した。今回計画を立てるにあたってかつらぎの道周辺の検討した敷地は右の図の丸になっている4つの場所で検討し、青に着色した畿央大学第2キャンパスに決定した。



テニスコート



高塚地区公園



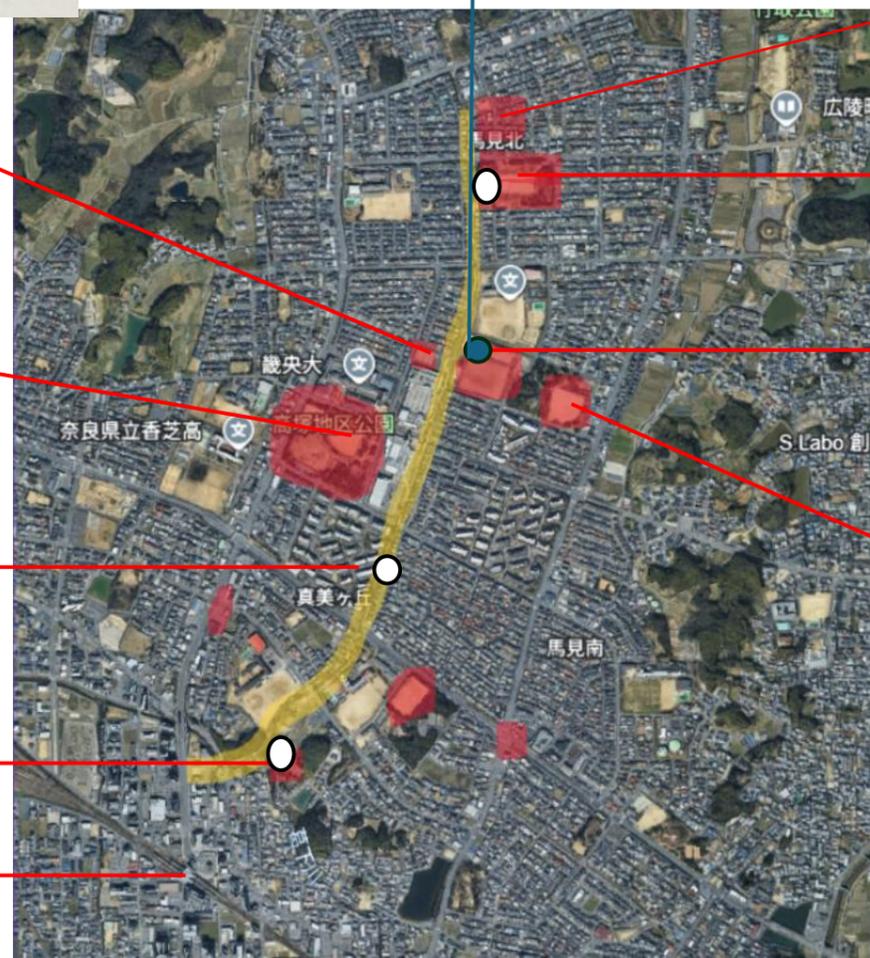
UR団地



ゲートボール場



五位堂駅



今回選定した場所



真美ヶ丘体育館



横峯公園



今回の対象地畿央大学第2キャンパス



見立山近隣公園

06 屋外卓球の事例

ノルウェー オスロ
 Marienlyst Skole
 今回事前に調査した中で一番今回の計画に近い物だった

カナダ ハリファックス
 Dalhousie university 大学キャンパスの真ん中で設置された屋外卓球台であり、夜の照明も設けられている。



<https://pingpongmap.net/upload/thumb1688043352.jpeg>



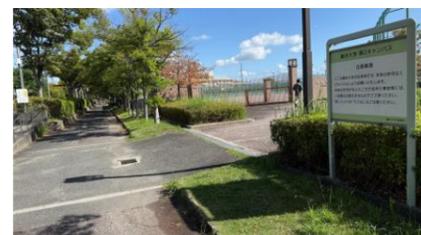
右の写真は日本 名古屋
 卓球の公式ウェアを販売しているショップとカフェを運営している

第二キャンパス

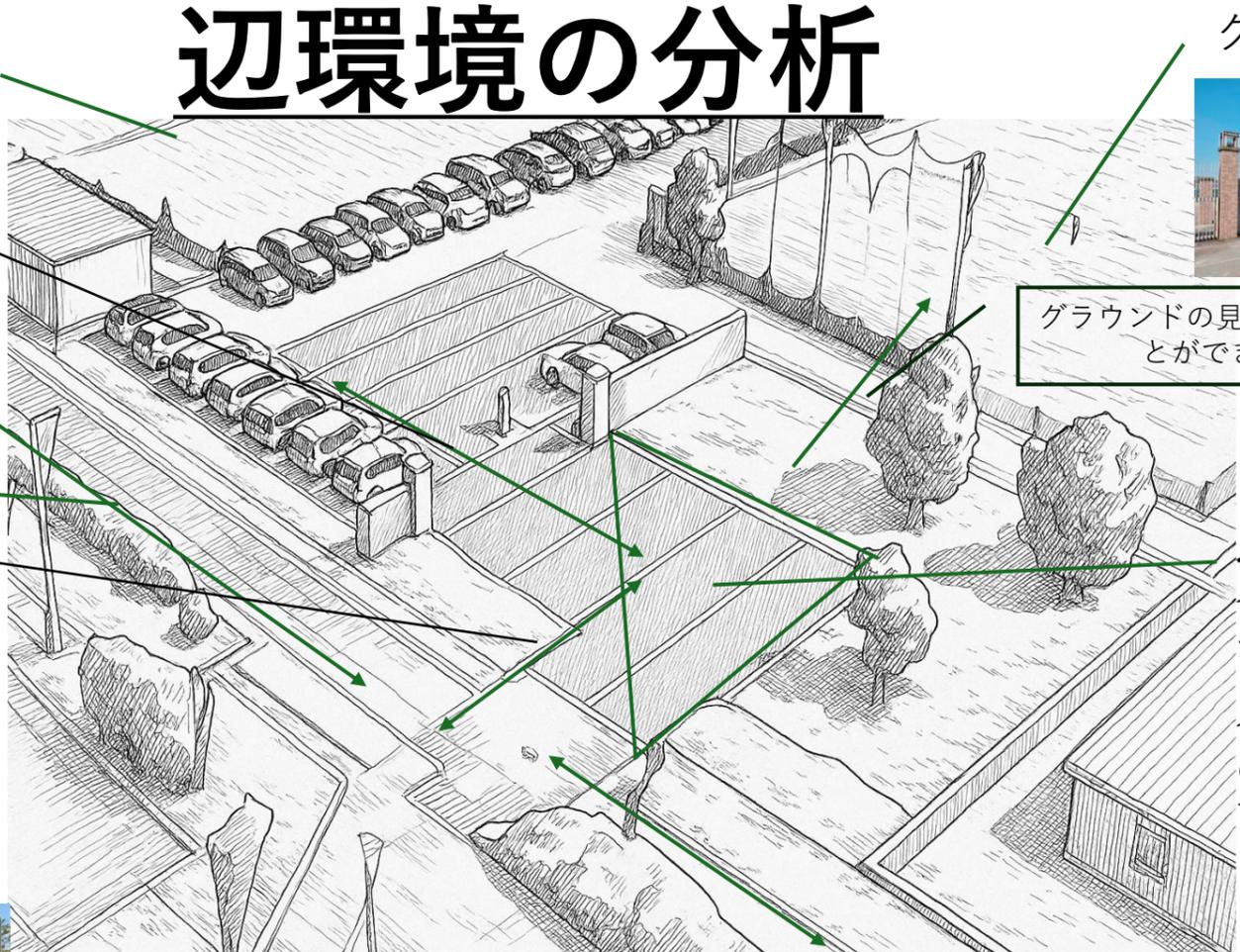
部活に行く友達や一緒に帰る人を待つための待合所として



運動したり休憩したりするために立ち寄る



08 提案対象地と周辺環境の分析



グラウンド



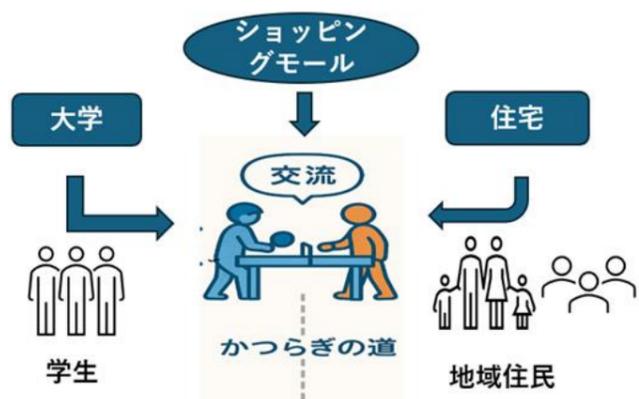
グラウンドの見学をすることができる

今回の敷地
 今はこのコーナーが有効活用されていないため
 今回の提案で交流の場所として活用する

07 場所の選定理由と提案コンセプト

場所の選定理由は大学周辺はかつらぎの道という遊歩道や小さなショッピングモールなどがあり学生と地域住民の動線が重なっており、世代間交流の自然な場を形成しやすいと考察した。
 そこでかつらぎの道に面しておりなおかつデッドスペースになっているこの場所であるならば元々かつらぎの道に体を動かしに来ている、もしくは運動する気のある人たちが利用しているのではと推測しこの場所を選定した。またキャンパスの間にあり地域とのつながりを持つ場所として最適だと感じた。

提案コンセプト
 ・屋外卓球場を交流の拠点として気軽にスポーツができる場を作ること
 ・大学キャンパスを地域に開放し地域住民と共有すること
 ・大学生サークルを結成し地域住民と共同し運営管理とイベント開催を担うこと



09 提案の設計図

大学のグラウンドのある第二キャンパスの門周りにおいて、10m二等辺三角形の空地を使って、「真美ヶ丘ピンポン・コモンズ」を計画する。

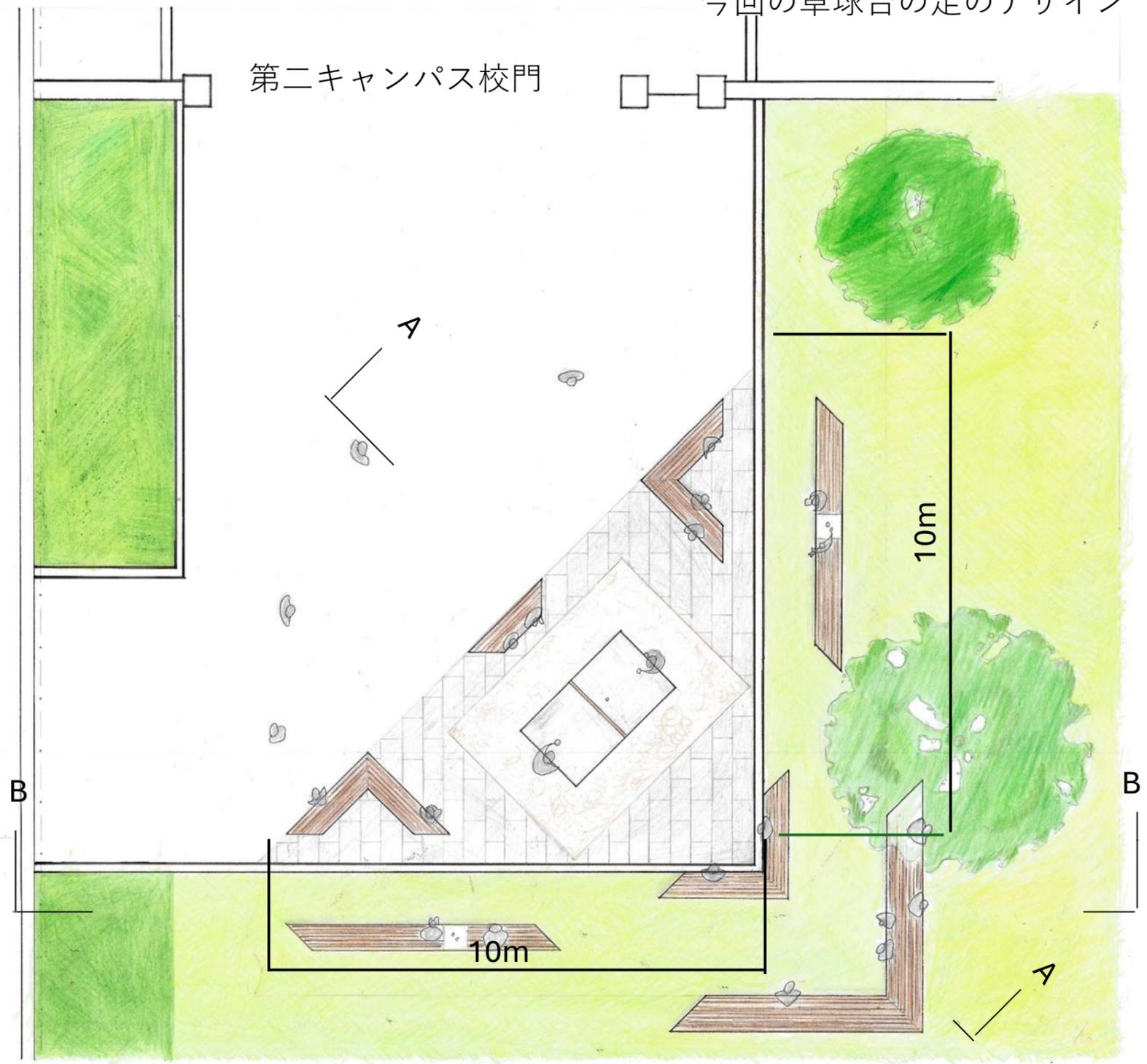
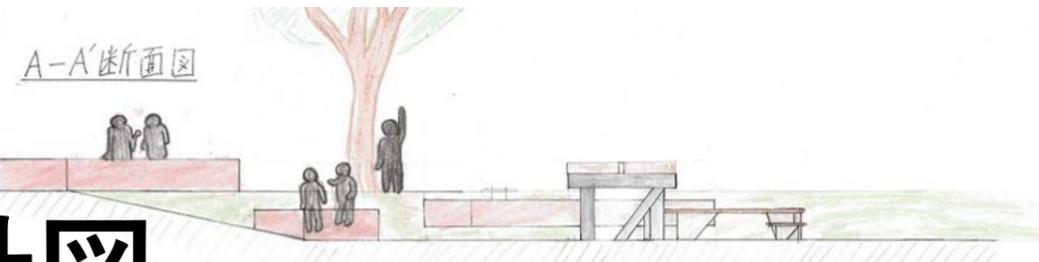
真ん中に屋外卓球台を45度斜めに設置して、周りに交流・観戦用のベンチを設計する。

既存の芝生起伏も活用しながら、大学生と地域住民、子どもと大人、多世代交流の場を創り出す。

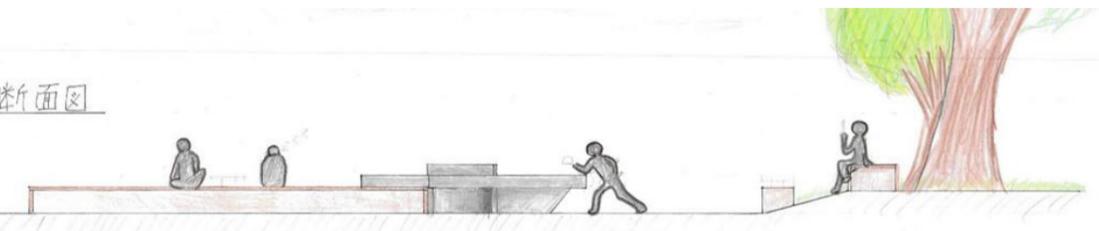
かつらぎの道

4

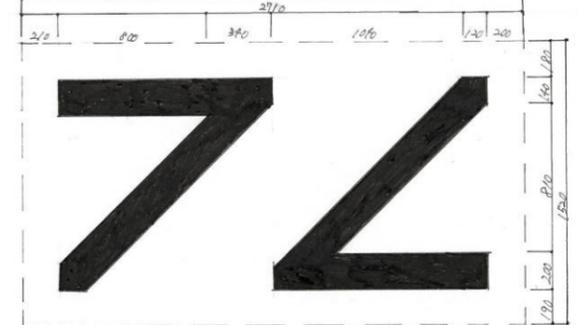
配置平面図 S = 1/100



B-B'断面図



今回の卓球台の足のデザイン



畿央大学 グラウンド



10 人を集める仕組み

イベント「Ping-Pong Commons Day」を四季ごとに開催大学とショッピングモールが協力してイベントを開催する

イベントを開催し少額の商品券などを出して人を集めてその集めた人が大会終りショッピングモールに流れるそして飲料などの買い物をしてもらってお金を落としていってもらう。



春
お花見に軽い運動を取り入れて食べたカロリーを消費



夏
朝の涼しい時間帯やラジオ体操の後など小さい子たちから老人まで楽しめる



秋
ハロウィンイベントでコスプレした選手が卓球をするなど



冬
寒さに負けないように散歩と卓球でぽかぽかに

11 運営管理体制

大学で学生有志と教員が「ピンポン・ commons」のサークル結成（人間環境デザイン学科+理学療法学科など）他学科と協力して合同でのサークル活動として大学生の参加により、先輩が卒業しても後輩たちが引き続くように、「ピンポン・ commons」でのイベントの開催や日常の運営が持続可能になる 官民学連携で、大学生、地域住民、自治会、役場、小学校が連携し、運営体制を構築する。利用時間帯やルールの共創、季節ごとの「Ping-Pong Commons Day」交流イベント開催を通じ、地域社会に開放された空間の活用促進を図る。



S=1/100 正面立面図